

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292000013		
法人名	社会福祉法人 愛仁会		
事業所名	グループホーム 恵天堂		
所在地	千葉県海上郡海上町蛇園2532-9		
自己評価作成日	平成21年9月12日	評価結果市町村受理日	平成21年12月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成21年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵天堂は高台で心安らく眺望の所にある。
 広い敷地内には、昭和55年開設の特別養護老人ホーム恵天堂や江畑医院、多くの介護保険事業所が併設され、多様なサービスの提供が可能である。
 ホーム職員は経験豊富で、全員常勤職員である。介護員は介護福祉士が4名、介護支援専門員の有資格者が1名おり、資格取得にも意欲的である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の同敷地内に、特別養護老人ホーム・デイサービス・訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業所・病院等の様々な事業所があり、連携を図る事で、入居者のニーズに合わせ柔軟且つ適切な支援が可能となっている。管理者が看護師の資格を有しており、24時間体制で医療・健康面の支援を行なう事が可能となっていると共に、職員への指導を随時行っており、サービスの質の向上が図られている。施設内は共有スペース・居室に十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。日々の申し送りや会議を行い、職員から意見・提案を確認する機会を多く設け、職員全員で入居者を支援する体制が構築されている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で作り上げた理念は玄関とスタッフルームの見やすい場所に掲示。理念の共有とサービスの向上に心掛けています。	尊厳ある暮らしの中で健康で快適な生活を送る事を主眼とした理念を掲げており、利用者本位のサービスの提供に取り組んでいる。理念は事業所内に掲示しており、常に理念に立ち返りながらサービスの質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の文化祭や産業祭への参加。地元ボランティア(友愛訪問)の月1回定期的慰問や自治会での夏祭りには事業所全体で参加し、地域住民と交流を深めている。	散歩等の外出時には近隣住民と挨拶を交わす関係を築いていると共に、地域行事には積極的に参加をしており、地域との交流促進に取り組んでいる。また、ボランティアの受け入れや地域の産業祭に出展する等地域貢献に努めている。ボランティア等の来訪者に介護保険制度や認知症についての講習を行い、施設理解の促進にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの慰問時に、短時間ではあるが、介護保険・認知症などの理解について勉強会を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市の介護保管担当職員や役員・家族の参加により、事業報告・現状報告・意見交換がされている(議事録有)	家族・市職員・施設関係者等を構成員として、年に3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告を行ない、施設理解の促進に努めると共に、出席者との意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	旭市高齢者福祉課主催のケア会議への参加。入居者待機者名簿を月1回市町村担当者へ提出している。	市の高齢者福祉課主催の旭市ケア会議に参加しており、会議を通じて市と意見交換を行っている。また、定期的に施設の入居状況等を報告しており、密に連携が取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修へ積極的な参加をしている。身体拘束廃止委員会の設置。玄関前は車両が通過する為、安全を第一に考え施錠しているが、入居者の状況によっては解放していきたい。	身体拘束排除の為の施設理念・方針を明文化すると共に、定期的に研修を実施し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。玄関においては、安全面に配慮し、施錠する場合もあるが、入居者の希望に応じて開錠し、自由な生活を支援している。	

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を4名が修了している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前より、2名の入居者が地域権利擁護事業を利用。社会福祉協議会が通帳管理をしており、月2回の支援員の訪問がある。今後も制度を活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所前に御家族・御本人と面接、説明している。入所当日に契約を交わすようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族参加や行事・面会などを通じて意見表出の機会を作っている。苦情相談窓口の設置。	相談窓口を設置すると共に、家族の面会時や電話連絡をした際に意見・要望を確認している。挙げた意見・要望においては、申し送りや会議を通じて周知・検討を行ない改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り後に職員は意見や提案をする時間がある。管理者は毎月・理事長会議や主任者会議に出席し、意見交換している。	日々の業務の申し送りの際には、職員からの意見を確認する等、毎日職員と話し合う機会を設けている。また、定期的に会議を開催し、職員からの意見や提案を確認し、サービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を取り入れて、働きやすい環境にしている。法人全体での納涼会、忘年会、職員旅行などがあり、リフレッシュできるよう整えられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修への参加。研修内容の共有・資格取得の推進(介護福祉士4名)		

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入。今後は勉強会等に参加していく予定。海浜地区における認知症勉強会への参加を通して近隣グループホームとの交流の場にもなっている。管理者は千葉県認知症研究会への参加。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員が傾聴に心がけ、利用者が安心できるよう情報を共有し、統一したケアを実践している。信頼関係を気付く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時、相談受付表をもとに聞き取りして不安や希望を表出しやすいようにしている。契約時は契約書、重要事項説明書の十分な説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設で特養・デイ・在宅・訪問があり、多様なサービスの提供が可能である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にして行く中で利用者様の生活習慣や知識から学ぶことも多く、個々にあった役割や手伝いを行なっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回家族参加行事があり、家族と職員、家族同士の交流の場になっている。問題発生時は家族と話し合い、解決策を見出すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊・電話等がいつでもできるよう対応している。入居者が利用していた施設に職員同行で足を運んだり、家族許可を得て馴染みの人との外出をする事もある。	見学や体験入居を実施しており、生活の延長での入居ができるよう配慮している。家族や馴染みの友人との面会・外出・外泊・電話等は自由となっていると共に、馴染みの友人との贈り物のやりとりをし、関係の継続を支援している。	

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日行なわれているレクでは入居者側になり、ボール投げやカルタ取り等を楽しみながら交流を深められるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった場合は面会に行ったり、御家族と連絡を取り合い、関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なケースカンファレンスを行い、職員全員が共有できるよう記録して、ファイルは職員全員が見やすい場所においてある。	入居時に本人や家族から生活状況・身体状況・意向等を聴取し、記録している。入居後は、日々の生活状況・意向等を会議や申し送り等にて周知・検討し、その人らしい生活を支援している。また、個別ファイルを随時閲覧しており、職員間にて情報の共有を徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活記録に家族構成や病歴・身体状況・ADL状況・IADLの記載したものをファイルして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・朝と夕の勤務交替時には申し送りがあり、情報の共有ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行い、ケアプランへ反映させている。定期以外にも状況に応じてカンファレンスを行い、ケアプランの変更をしている。	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行なっていると共に、定期的に会議を開催し、入居者についての意見・情報交換を行っている。また、随時、身体及び生活状況を確認し、必要に応じて介護計画の見直しを行なっている。介護計画においては、本人・家族の意向を確認した上で、介護職員や看護職員の意見を参考に作成している。	

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かな生活の様子・言動・体調の変化を個別に記録して職員間で共有している。変化がある場合はケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設して事業所があるので、特養・デイ・訪問等職員の協力体制が整い、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の休耕日を利用した(夏:ひまわり 秋:コスモス)祭りのイベントに参加し、季節感を満喫し、精神的豊かさを楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診継続。緊急時は、協力医院を家族承諾のもとで受診・往診できるようになっている。	受診においては、希望のかかりつけ医への通院が可能となっており、希望に応じて職員が付き添いを支援している。管理者が看護師であり、適切な健康管理や職員に対する医療面の指導等が行われている。協力病院が同敷地内にあり、往診等の柔軟な医療支援が行なわれていると共に、緊急時おける迅速な対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で正看護師の配置。受診介助等を行い、医師との連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と常に連絡が取れるようになっている。退院後も安心してホームで過ごせるような体制を作る為に、主治医や病院関係者と連絡を取り合っている。		

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後に家族へ看取りの指針を説明。重度化した場合は御家族と主治医と話し合い、意向を尊重しながら対応している。	終末期における指針や対応方法を明文化し、入居者・家族からの同意を得ている。重度化した場合は、本人・家族の希望を随時確認すると共に、主治医や職員等と連携を図り、施設としてできる限りの支援ができるよう体制を整えている。夜間急変時においては、同敷地内の病院との協力体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師への24時間温コール体制。緊急時の対応マニュアルが作成されており、内部研修でも対応を学んでいる。(市の救急救命士による指導)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体としての防災訓練に利用者も一緒に参加している。火災通報専用電話機の設置。	火災報知器・通報器等が設置されていると共に、対応手順・避難経路等のマニュアルも整備されている。年3回、消防・避難訓練を実施しており、災害時の対応方法を指導している。また、同敷地内にデイサービス・特別養護老人ホーム・病院等があり、緊急時には、連携が図れるよう、協力体制が構築されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全面個室・洗面・トイレ付きの居室で鍵が付いている為、一人の時間を大切にしている。入浴時は一人ずつゆっくり入れるよう十分時間をとっている。	研修の実施やマニュアルの整備を行うと共に、各居室に鍵・洗面所・トイレが設置されており、入居者のプライバシーに配慮している。また、共有スペースにベンチを設置し、居室以外にも個人の時間を過ごせるよう工夫されている。介助・誘導時の声掛けの方法に細心の注意を図り、入居者のプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定できるよう促し、居室担当職員が希望を聞く等して、利用者が表出しやすい状況を作る努力をしている。		

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れの中で天候や気分・体調により一人ひとりにあった快適で穏やかな時間が過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容室に行き、カラーやカットをしている。好みの衣類を購入して身だしなみやお洒落が楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、米とぎやおかずの盛り付けなどを手伝ってもらっている。味噌汁作りでは利用者と具材を考えながら作っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け等共同で行っている。併設の特別養護老人ホームにて、おかずの調理や栄養士による献立の作成が行なわれている。味噌汁・ご飯・おやつ等は、入居者と職員が共同で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に細かく食事・水分量の記録をしている。存在歯や嚥下状態によっては食べ物の大きさや堅さ・調理方法・とろみをつけたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後の口腔ケア。義歯装着者は夜間ボリデント洗浄を行なっている。冬季敗訴人でうがいを行い、病気の予防に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録から排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。布パンツ・パッド・リハビリパンツを利用者に合わせて使用している。	入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、適切な誘導・声掛けにて排泄を支援している。また、必要に応じて会議にて対応の検討や情報の共有を行い、できるだけオムツを使用せず、自立できるよう支援している。	

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調に合わせたおやつや水分の提供・ラジオ体操やズンドコ節体操・散歩等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行い、朝のバイタルチェックなどを考慮して体調に合わせた対応を行っている。入浴時には入浴剤を入れたり、冬至には柚子湯にしたり楽しめるよう支援している。	入浴においては、毎日実施し、希望に応じて回数等柔軟に支援している。また、状況や体調に応じて、部分浴・シャワー浴を実施していると共に、能力に応じて、併設の特別養護老人ホームの特殊浴槽を利用する事が可能になっており、入居者の清潔保持に努めている。入浴剤の使用や季節に合わせた柚子湯等の実施により、楽しい入浴の支援も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、こまめに布団干しを行い、安眠できるよう心掛けている。リビングはソファや畳を設置して居室以外でも休息できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から説明。個人に処方された薬の説明書が生活記録にファイルされている。下剤は調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの庭に畑を作り手入れや収穫を楽しんでいる。それぞれの経験を活かした役割を楽しみながらできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事担当の職員を決め、年間行事計画を立て毎月実行している。個別に買い物や美容室など出掛けられるよう支援している。	天候や希望に応じて、散歩を実施しており、近所のコスモス畑・寺院等への外出が行なわれている。定期的に行事を企画・実施しており、戸外に出掛ける機会を設けている。法人所有の福祉車両を活用し、入居者全員が外出できるよう配慮している。また、個別の希望に応じて、馴染みの美容院や買い物等への外出に対応していると共に、家族との外泊・外出が自由となっており、家族間での楽しみも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は所持しており、支払いをしている。御家族と相談の上、利用者に合わせて対応している。		

【千葉県】グループホーム 恵天堂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所内の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内全体に季節を感じられる装飾をしている。居室トイレや浴室の場所が混乱しないよう、ネームプレートや場所の名称を書いた装飾をしている。	リビングには、ソファやテーブルを設置しており、入居者がくつろげるよう配慮している。ベランダには、大きなウッドデッキが設置され、天気の良い日は、富士山を展望する事ができる等、見晴らしの良い環境となっている。トイレや廊下は十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮している。施設内の随所に行事写真や入居者の作品が展示されており、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファや畳を設置。廊下には長椅子を設置して思い思いの時間を過ごすことができるようになっている。ウッドデッキへも自由に出入りする事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室、洗面、トイレ、クローゼット付で馴染みの家具やテレビ等を自由に配置できるようにしている。	入居者の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。全居室にエアコン・換気扇が設置されており、適切な空調管理がなされていると共に、トイレ・洗面台・鍵が設置されており、入居者のプライバシーに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには手すりの設置、バリアフリー設計。共同トイレには転倒防止のバーを設置している。利用者によっては室内でシルバーカーや杖の使用をしている。廊下の幅は169センチと広く車椅子での走行にもゆとりがある。		